

～なぜ企業は連単分離が進まないのか～

木村ゼミ：唐澤祐矢、小林竜馬、浜木彪我

☆研究の背景：日本では連単分離はあくまで企業の判断にゆだねられており、年々連単分離を行う企業が増えている。これは企業が国外に向けた会計情報を開示する重要性があるからだ。しかし行っている企業の割合は未だ少ない。それはなぜかについて調べた。

☆研究上の問い

- ・連単分離が進まない理由は何か？
- ・連単分離を進めるにはどうすればよいか？

☆連単分離について：連は「連結財務諸表」、単は「単体財務諸表」を表しており、連結財務諸表と単体財務諸表でそれぞれ会計処理が異なること。

☆現状：日本では、上場企業では基本的に連結財務諸表を IFRS で作成することが可能。

☆適用共通目的：

1. グローバル展開の一層の推進による企業価値の向上と資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上
2. 会計処理の標準化によるグループ経営管理の向上

☆課題：IFRS 適用企業の少なさ

IFRS を適用することで、国際的な資金調達機会拡大や企業価値の向上を図れる。しかしプライム市場 1,834 社の内、IFRS 適用済会社は 210 社と全体の 11% と低い割合である。

☆仮説 1 会計処理の変更や影響評価

日本基準から IFRS への組み替え仕分けの困難さ。
それら処理変更により業績の変動が起こり投資家や利害関係者に混乱を引き起こすことが示唆される。

☆仮説 2 導入コストの壁

IFRS を適用するためにかかる期間や費用の負担

☆解決策 1 日本基準を利害調整機能の基準にする

財務諸表には、情報提供機能と利害調整機能の 2 つの機能がある。
情報提供機能は主に投資家に対する情報提供を想定しているため、IFRS は日本基準と比べると投資家の意思決定に有用な情報提供機能を重視している

☆解決策 2 適用対象の段階的導入

規模の大きい企業ほど、移行コストが多額となる傾向がみられる。

☆結論

連単分離をすることでグループ経営の管理向上、財務情報の国際的な比較がより安易となり、グローバル市場での信頼性が向上する。しかし連単分離を行っている企業は少ない。そのため連単分離を拡大していくには、IFRS を適用しやすい環境の構築・対策を施さなくてはならない。